



(5) 81歳 世田谷区三宿 戦～12歳 埼玉県比企郡
⑪ 転校の話 転校の生れですが 戦争(1941～1945)のために母の郷里、埼玉の比企郡(現八高線の村)へ家移住で「疎開」時代に入りました。小学校もこの村の隣へ転校をため、通学族が少なくて3年4月すと始の転出の友達ちは転校へ引き上げて(ましまつた)私は母が生産不足で食べ物が不自由でなかつたために、小6までこの村(学校)に居ました。米穀、じやがいも、さつまいも、野菜などは田山の農作業で手伝うとして、自立自給めどりなど、春夏秋冬の外で稼働の日々でした。中学で職に父の仕事の都合で、転校へ転校になりましたが、埼玉弁を話すはまだつかなかったです。小学校までいたために、今はクラス会に立替えます。転校が樂しげになりました。

(7) 81歳 世田谷区三宿

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(a) 41歳 世田谷区代田 → 京都市北区東柿の木町
(b) 長女の高校合格の発表がありほっとして喜んでいた矢先、その日の夜、会社から帰宅した夫から突然、大阪転勤になつたと告げられた。夫はすぐ大阪へ入學のきまと長女はとにかく4月、都立高校に入學すたもんだ(たとえ8月末日に京都市立高校の編入試験に合格し、やっと引越し東京に高齢の親を残して、関西での4人の生活が舞台となつたのである。
大変だった思い出、今となってはなつかしい。
(c) 88歳 世田谷区代田

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 5才 (渋谷区)
1. 5才 篠塚人に居ました。
(小学生の時)
2. 同級生が草ぶきの家に世田谷で、
住んでいたこと思い出しました。
キャベツ畠もあつたよ
3. 66才 大田区西糀谷
すぐ遅刻してすみません。

No.31

『東京転勤』

昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. -6才
2. 恵一おじいちゃん
今日の会話一番印象に残った言葉は、「世田谷の田舎へ」と。どうもんば、高輪包み、高輪育ちの母親は、三軒茶屋に引っ越しで、「三軒茶屋の御宿ち」とおなじい字を使つた。高級住宅地世田谷イメージはいい映え音(ひびきのね)。(いつか世田谷に田舎へやがれ脱却(だきくつ)するね)
- 横浜港へ出でる映像が、ホールネイチンブルート、絶壁の斜面を歩くところ、當時流行りの(と思われる)石川格子次郎のファンションの影響(ひんきょう)が、これほどから見えてる。
3. 55才 世田谷大字堂

No.31

『東京転勤』

昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 11才 下馬
2. 当時のあこがれの生活だった
3. 世田谷 72才

No.31

『東京転勤』

昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 昭和56年生まれ、20年前父は10才
2. 妻の実家が上町なので、映像はどの辺りなんだろ?
と気付いた。
前の職場の利用者さんが軍需工場に勤員された。ドラム缶を紙袋(ひきぶくろ)にしてリサイクルと思つたと言つたのを思い出した。
3. 41才、下高井戸在住

No.31

『東京転勤』

昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- ① 8才 港区堀留
② 横浜まで移しがてぐらんかったのは残念です。
車両の乗り物は乗りだしてしまつたね。
東京での出来は転勤されていくよくたってからでしょうか?
勤
日本スピッツ、あんな風なりアクリシティンでしたをよつてヒステリックで
ラントマークが並ぶ様に、かつて場所の特徴はスカイツリー。
皆、世田谷公園も旅館有りましまね、駒込の山田屋、ヤクザの車の跡など。
③ 現在68才 大田区在住

No.31
『東京転勤』
昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 4才 東京葛飾区
2. 玩具メーカーに勤めていた父が、社長のお供でアメリカに出張し、帰国日の日に大勢の社員の人たちと羽田空港に迎えに行つたのは、ちょうどこの頃だったと思う。
服は母の手縫いだった。白のフランスに、グレーブスカートとか、ストライプなどのばかりで、レースのついたのとか、ピンクの服とかは着たことがなかった。我が家にも編み機があり、ジャーツ、ジャーツという音は今でも覚えています。
3. 65才 横浜市

No.31

『東京転勤』

昭和36年8月 | 自宅(福岡県)、自宅(上町)、横浜港
3:57 | モノクロ
転勤先の自宅周辺。横浜港など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83